

第6回水産教育のあり方に関する検討委員会

日 時 平成21年6月10日(水)

13:30~16:00

場 所 サンラポーむらくも2F 瑞雲の間

※ホームページに掲載する際は、お名前は削除いたします

会長挨拶

第6回のこの会議御案内いたしましたところ、御多用中にもかかわらず全員の御出席をいただきましてありがとうございました。

今回は前回協議いただきました水産練習船のあり方、これは一応1隻体制というふうに決めましたけども、これを含めて水産教育のあり方検討委員会の提言案について御審議いただくということになっております。

今までの検討委員会の審議を受けまして、実は前回提案がありまして少し委員で検討しようということで、遠方の委員の方には御迷惑かけますので、近回りの委員が集まって協議いたしました。〇〇委員さんの原案をもとに、5月22日に〇〇委員さん、それから〇〇委員さん、〇〇委員さんと私と、4名の委員とそれから事務局と協議いたしました。それで大体の骨格を決めまして、その後事務局と数回のやりとりをして今回に至ったということでございます。

今まで出ました意見に配慮しながら入れ込んだつもりでございますけども、不足しているということがございましたら遠慮なく御指摘いただければというふうに思います。

よろしく願いいたします。

議題1 提言案について

○会長

進め方につきましては、提言案の項目ごとに分けて、まず事務局から読み上げていただいて、その後その部分に関して質疑を行い、そういう進め方をしたいというふうに思っています。

区分けとしては、一つは検討経緯と及び背景、それから総括提言、それから水産高校

(本科)のあり方、水産高校(専攻科)のあり方、それから最後に水産練習船のあり方ということで、5項目につきましてそれぞれ読み上げてもらいながら協議するというふうにしたいと思います。

(資料3の「検討経緯及び背景」について事務局より説明)

○委員

1ページ目ですが、課題のところでは商船船員、漁業船員についてという順番を、漁業船員、商船船員とした方がと思うんですが、どうでしょうか。

○会長

何かひっくり返す意味がありますか。

○委員

今検討してるのは水産教育のことですので、水産に関する漁業船員の方が先だという意味しかありません。

○委員

ちょっとこれに関連して、ここの船員というのは、例えば漁船船員数というのは海技免許のかなりのレベルのものを持つてる者をいうんですか、あるいは小さな船で漁業してるような人たちも含めてなんですか。

○事務局

海技免許を持つてる持ってないじゃなくて、漁船に乗っているという意味での船員です。

○委員

漁業従事者ということですか。

○事務局

はい。

○会長

どうなんでしょう、漁業従事者という表現がいいのか、漁業船員という表現がいいのか。

○委員

漁業船員という言葉は余り私たちは使わないですね。ふと思ったのは、ある程度一定以上の資格を持つてる者がと思ったんですけど。

○会長

そうですね、何かそれっぽい感じがしますよね。どうなんでしょう。

○委員

乗組員がいいんじゃないですか。要するに従事者で、漁業従事者か乗組員。

○委員

経営する人もありますから。

○会長

そうなんですよ。

○委員

自営をされる人、それから従事をされる人という、束ねて従事者と。

○委員

ここの資料1のところで、国土交通省の資料には漁業船員と書いてあるんですよね。資料1ですけどね。国の省庁の資料では、漁業船員というようになっていますね。

○会長

この漁業船員は漁業従事者も入っていますかね。

○事務局

いや、これは漁業従事者は入ってなくて、漁船に乗ってる人間だと思いますけど。

○会長

だから総括して漁業従事者ということでどうでしょうか。

○委員

船に乗らん人でも従事者はいる。

○委員

養殖業もありますしね、栽培漁業。

○委員

そうすると、むしろ漁業従事者の方がいいんじゃないですか。

○会長

後ろにひっかければやっぱり全体のことですね。

○委員

ちよつとこれ、漁業船員数というのは漁業従事者とは違うと思うけど。

○事務局

違うと思います。

○委員

基本的に違うでしょ、従事者と船員とはね、全然。

○委員

これで資料、ここの文章が船員数のこのグラフをもとに書かれてるんですね。

○事務局

そうですね。

○委員

だからこの船員数というのは定義はどうなってるかと確認しないと。

○委員

いや、そこで足せばいいです。漁業従事者という項目一つ入れれば。

○会長

船員プラス従事者という表現ですか。

○委員

ですから課題の上の現状のところですね、船員数となってるでしょう。船員数全体はということになって、それを受けて課題としてはこうであるということですから、船員数という表現で7割とか書いてあるんですよ。この水産に関することは船員だけではないんですよ。

○会長

そうです。

○委員

ですから水産業に従事する人が年々減少傾向にあって、過去30年で水産業に携わっている人は7割ではないと思うんですが、減少していると。

○会長

前半の7割減少というのは、商船、漁船も含めた船員数全体のことだと思うんです。後半で漁業船員数、漁業従事者の問題が現状とか出てきてますので、これを受けるんだったらこのような使い方がいいかわからんですけど。だからここには漁業従事者という言葉を入れますか。商船と漁船と漁業従事者と。

○事務局

それじゃさっきの商船とか漁業を入れかえるという話はどうでしょうか。

○会長

いや、議論としては漁業者の中に漁業船員も含めてという話もあったけども、今、〇〇委員さんは漁業従事者というのを別に書いた方がいいんじゃないかというような話がありましたので。

○事務局

じゃ商船船員、漁業船員の次に漁業従事者。

○会長

いや、まだこの順番は、漁業の方を先に出した方がいいということですから。

○事務局

はい。

○会長

じゃそういうことでこれはやります。県内の現状、課題はどうでしょうか、〇〇委員。

○委員

細かいことですが、4番目のところの2行目に漁船運搬船の高船齢化と書いてあるんですけども、この運搬船というのはまき網の運搬船なんですけども、一般の人では運搬船も漁船の中に入ってますので、運搬船という言葉をとった方がいいと思いますけども。

○事務局

事務局としてはそれでよろしいと思いますけど。

○会長

では、「運搬船」をとる。「漁船の高船齢化」という表現に変える。

○委員

同じく3番目のポツの産業に占める水産業の比率は高いというのは、これはもう少し言葉を加えないとちょっと……。

○会長

具体的にですか。

○委員

具体的にわかりづらいんじゃないですかね。というのは、構成人数の比率が高いのか、いわゆる生産額といいますか、そっちが高いのかという。

○会長

隠岐と浜田で圧倒的に違いますけども、比率がですね。それを含めてというふうなニュ

アンスで恐らく書いてあるとは思いますが、どうなのでしょう。これは資料に出てなかったですか浜田、隠岐は。

○事務局

ないです。

○会長

ないですね。資料でカバーするという方法ではどうでしょうか、今の話。資料の中に数値を入れるということで。ここは説明を書き出したらかなり。

○委員

それは構わないと思います。ちょっと資料がないものですから、何が高いのかなとちょっと思っ

○会長

その資料をつけるということでカバーさせていただくということで。

同じような話は、現状の2番目の全移出額の5.7%云々というところも県の経済計算の中の資料からですけども、ここらあたりもちょっと関連資料をつけるということがいいかわからんですね。

○委員

これ移出額ということは一般的なんですか。

○会長

圏域収支で移出、移入というふうな……。

○委員

出荷額という意味でしょうか。

○会長

単純な出荷額ではないですね。

○委員

それと、2ページのポツの4番目の全国と同様に水産業の衰退が進行しているというんですけども、少なくとも金額、量等はマイワシがとれなくなって一時減りましたですけども、今のところ10万トン、11万トンでずっと推移してまして、衰退が進行というんでなくて底をついた形で、あと上昇するのかこのままいくのかはあれですけども、「衰退が進行」というのはちょっと表現としては。

○会長

進行という表現。

○委員

ええ。

○会長

停滞とかそういう表現、意味合いの方がいいということですか。横ばいとか。

○委員

ええ。あるいは低迷とかですね。今のところ底をついた形と私たちは理解しておりますけども。

○会長

確かにちょっとかなり刺激的な表現でありますので、長いスパンで見ると進行しているということですけども、この数年の比較を見ると低迷、停滞という状況ですけども、これでそういう表現でよろしいですかね。変えるということ。

○事務局

「全国と同様に水産業が停滞している」と。

○委員

全国とはちょっとパターンが違うと思いますので。

○会長

比較はとって、県内の状況だけで。

○事務局

「水産業が停滞している」と。

○会長

ほかはよろしいでしょうか。

○委員

2 ページ目の現状の2つ目のところなんですけれども、移出額の5.7%を占めというところで、大きく貢献しているという印象が、私は5.7%で大きく貢献しているのかなという疑問を持ったんですが。例えば図が示してあって、たくさんあって、こういう幅が示されているというのなら何なんです。

○会長

実際には域際収支は赤字ですので、赤字の中で5.7%というの非常に大きいウエート

は占めてることは占めてるんですよ。ここらあたり、具体の数字を出すかどうかも含めて適切な表現に変えるということで、これはもうちょっと資料でカバーするという形にしたいというふうに思いますけども。

ちよつとここらあたりの修正はお任せいただけますか。よろしいですか。他にございますか。

○委員

さっきの高齢化が進んでいる。その後はどういうふうになるのかですね。水産業が低迷しているという表現に変えるんですか。どうなんです、停滞している。

○事務局

さきほど停滞しているという言い方にしましたけども。

○委員

水産業の危機感は強いとかという、そういうような言い方でもおかしいですかね。

○委員

これは主語は何ですか。

○会長

ここでいうと生産構造なんですよ。低迷というか、停滞が続いているというようなニュアンスの表現にはなると思うんですけどね。

○委員

客観的な状況説明ですから、停滞でいいんじゃないですか。私はそう思いますけどね。

○事務局

わかりました。

○会長

あとはよろしいでしょうか。じゃ次に総括提言。

(資料3の「総括提言」について事務局より説明)

○会長

中身に入る前に、全体の構成の意図を〇〇委員さんから説明願います。

○委員

提言各論だけを述べるという前に、やはりその現状と課題の中からその島根県全体の水産教育を考える上で、大きな意味で総括的な提言を最初に持ってきた方がよりインパクトがあるのではないかと考えておきまして、やはり我々が6回も議論を重ねた中でそのま

とめを最初に持ってくることによりまして、この議論の、それから流れていく各論へスムーズに移行するのが一つと、先ほど言いましたようにやはり最初にこの総括提言でこの水産教育のあり方を述べておくことの方が意義が深いのではないかなということで、これを総括提言という形で前面に持ってきたというように私は考えておりまして、そういう提言にさせていただきます。

○会長

一応通常のパターンで「終わりに」というふうなところを先に持ってきたというふうにご理解をいただければいいなと思います。

したがって、総括提言で書いてること、それから提言各論で書いてること、これが同じようなことだったら意味がないわけで、総括提言と提言各論を読む中でダブリとか表現のむだとか、本来は各論持ってくるべき話じゃないのかなどありましたら、御議論いただければと思います。各論も読んでしまいますか。その方がいいですね。

じゃ各論読んでください。

〔資料3の「提言各論」について事務局より説明〕

○会長

総括提言と各論がこのような構成でいいのかどうかということ。それから、個々の文言について不足点、それから順序がおかしい点、入れかえが必要な点等々ありましたら発言を。

まず、総括提言の内容について、「終わりに」を先に持ってきたということ。高校にとっても、これからどういう高校にしていくのかということ、この点に今後の努力を傾注していただきたいというところをまとめました。なおかつ高校を取り巻く企業、社会、行政に今後水産高校がこういう考え方でやっていく、こういう考え方で変わっていくということを、宣言するような意味合いも総括提言の中にはあるというふうにご理解いただければと思います。

そういうこともひっくるめて、水産高校の今後の戦略の方向としてこういう方向づけがいいのかどうかということをご議論していただければと思いますけど。

○委員

総括提言の文言ですけども、(2)と(3)については非常に具体的に書いていらっしゃると思うんですが、(1)の「水産高校を水産県島根の資源(宝)と位置づける」という、この資源というのはちょっと漠然としてないかという感じがせんでもないんですが。

それで私考えたんですが、「教育資源」としたら、どうでしょうか。

○会長

教育資源ですか。

○委員

ええ。水産高校は教育の資源だというふうに入れたらもうちょっと具体性が出てくるんじゃないかという感じがしました。

○会長

そうですね。（1）番は抽象的な表現ですね。

○委員

（1）番については理念が少し勝ってるような感じがしましたもので、もうちょっと言葉の一つ入れてはどうかなということちょっと考えます。

○委員

3点をこういう組み立てというのは賛成なんですけど、要はこの3つの白抜きのところが最初にあって、それから各論に展開する、こういう組み立てなんです。全部3つとも賛成なんですけども、ちょっと（3）番が内容が（1）と（2）と比べると少し弱いような感じも、これは印象なんですけど、特にそのうちの②がもう少し具体的なわかるような記述にならんだろうかという。

例えば県、国に対して要望すべきであるで結んであるんですが、人材育成機関と位置づけたらどうなるのかというところがわかると、3つ目の柱として連携とそれから位置づけという部分の具体性が加わるような気がします。

それから、先ほど〇〇委員からあった資源の話ですが、私の感覚とすれば最近の物言いのトレンドとして地域資源だとかそういう言い方も随分漠といいながらもるので、この資源という言い方も、教育をつけなくてもすっとんと落ちるような感じは個人的にはありません。

特に今一番最後の部分、確かに国に対する云々というところのの効果という分を少しわかるように説明入れた方が、そうすると大きな3本の3本目の柱も3つで成り立っているんだと、そういうような気がしますけどね。

○会長

最初、資源の話はあえて教育資源と言わなくても、今の話じゃないけども資源という言い方がちょっと 트렌ディーだし、教育資源というと何か陳腐的な表現になりますので。

○委員

こだわらんですけども、何かそんな感じを受けたもんで。3つを並べて考えたときに、いや、いいです。

○委員

今、〇〇委員がおっしゃったように(3)の②の人材教育機関として位置づける。これ具体的にもうちょっと何がというイメージがわかんのですが、そこら辺どういうものを考えておられるのかという部分を入れた方が若干親切じゃないかという、余り具体的に入れ過ぎるのもあれかもしれませんが、もうちょっとイメージがわくようにした方がいいんじゃないですかね。

○教育長

番外から討論に加わらせてもらいますが、その連携強化も、②の人材のところも現状分析なしに結論だけ書いてますからこういう格好なんです。①が言ってるのは、水産業界から見たときに本当に多様になる水産高校としてそういう評価がされてますかと。されてないから、連携することによってそうした評価を高めていかないかという意味ですよ。②番目は、特に専攻科を含めてなんだけども、海洋国家という標榜が今少し弱いかもわからんけども、そういう中でこの人材の育成というのが水産高校、特に専攻科における船員の養成ということに随分寄与しているんだけども、それに対する国の政策としての評価が低い。財源措置も含めてそうしたことについてもっと位置づけをきちっとせいということ国に言っていきというふうに書き込みますとというか、文脈としてはそういう文脈をここでは言いたい部分なんです。もしよければ、少しそういう書き込みするという手があるじゃないかと思います。

○委員

そうですね。どう書いていいかはちょっとまだあれなんですけども、すぐわかりません。

○会長

確かに1県、2校に専攻科があつて、ない県もたくさんあるなかで、島根県が県の財政をはたいて維持しているということは非常に大きい問題だと。国に対しても、やっぱり少しそこらで考えるべきじゃないかということと、やっぱり国策の中で、特に海運業者なんかもそうですけども、水産高校が人材育成機関という位置づけはほとんどないですね。情報としても流れてない。せいぜい商船高専までということで、水産高校でそういう海技3級の免許を持つ人材を育てるんだというふうなPRすらできてないという現状があります。

ここらあたりをきちっと認識して、やはり国策としてどう考えるのかという逆に意見を聞きたいということもありまして、こういうふうな思いで書いてございますますけども。

○委員

この総括提言そのものが一つの思想であって、その思想があるからその後の各論で施策としてこういうものがありますよというふうに具体的に落とし込んでいこうということなんですけど、今のこの御指摘の②番については各論のところで落とし込んでないんですよね。ですから思想だけで言ってますので、御意見を言われるように少しやはり具体的に踏み込んだものをやっぱり書いておいても僕もいいんじゃないかなというふうに思っております。

○会長

ちょっと遠慮したという部分がありますけども、歯に衣を着せずに書けということだったら、そこらあたりのニュアンスで少しわかるようにするというにしたいと思います。

じゃ次に提言各論、本科、専攻科のあり方についてというところで御意見いただきたいと思います。

それぞれまず必要性を述べて、その次に学校・学科の配置ということで、基本的には現行の体制でいくというスタンスで述べています。それから、それを前提にしながら今後検討すべき教育内容ということを中心に書いている。ここらあたりまず、文章的な記述も含めて、本科、専攻科のところ意見を伺いたいというふうに思いますけども。

○委員

5 ページの今後検討すべき事項のA、教育内容についてというところなんですけれども、「下記の教育内容をより効率的、効果的に学習できるような学校運営の工夫、見直しを図りたい」というところなんですけども、教育内容についても触れているわけで、反対に次の専攻科のあり方の同様の位置にある「今後検討すべき事項」の教育内容の部分を見ると、水産経営学など云々のための新しいというようなのがあるので、ここの最初の5 ページの方も「何々をするためのより効率的、効果的に学習できるような教育内容や学校運営の工夫、見直しを図りたい」というふうな言い回しの方がよろしいんじゃないかなというふうな気がしました。

○会長

具体的に言うと、どういう表現になりますか。

○委員

本科の教育内容に期待するもの、こういうふうになるように効率的、効果的に学習でき

るような下記の教育内容や学校運営の工夫、見直しを図りたい。目的をうたった上で、教育内容や学校運営の工夫、見直しを図るように提言するといったような言い方がよろしくないでしょうか。

○委員

このハとホのところなんですけど、水産高校を強くアピールするためにはこのハとホを全面的に押し出して、今、就職難のときですのでこういう資格を持っていればより一層就職がしやすいんだというところを、このハとホのところをちょっとアピールを強くした方がいいと思うんですけどね。

○委員

2点ほど。1点は、学校学科の設置についてで、まず1段で、前段でいわゆる必要な教員数を確保するには2学級が要るんだよと。この「したがって」というつながりがどうしても何回読んでもひっかかるんですが、要するに後段は7割以上、両方この5年間平均でやってるから7割以上はパスだという、そういう基準的に理解すると、そうすると、したがって、次、何とかの状況になっているが、両校とも現行どおり2学級体制の、そうなんだろうけど、ちょっと文章がおかしい。

○会長

そうですね、だから「したがって」が受けるのは最後の両校とも現行どおりにつながる。

○委員

まあ意味はわかりますので。

○会長

それをここで表現するのか、資料的にカバーしていくのかということですね。

○委員

もう一つ、今後検討すべき事項で専攻科のところに教育内容で水産経営学というのが出てきておって、水産業の担い手育成のために新しい科目の導入を検討されたい。これは専攻科のところです。この議論はありましたか。

○会長

いや、議論はなかったです。実は、これは私の意見というか、例の浜田の視察に行ったときに兵庫県の香住高校出身の専攻科生がいて、漁業の後継ぎしたいと。例えば、農業大学校だったら基本的には農業経営の勉強もする。だから水産経営に関する授業がやっぱりあるべきじゃないのかと、専攻科にですね。時間的にもそう多数の授業時間をとるわけで

もないし、学校を出たらサポートしてくれる人がだれもない。もちろんJFのサポートがあるかもしれませんが、やはり学校できちっと基礎的なものは勉強すべきだという意味合いがあってこれを入れさせていただいたということです。

○委員

とりたてて反対するものでももちろんありません。

○会長

ちょっとまず議論を分けますと、体制のところ、ここでいうと①②のところはいいですか。①②については基本的に現行どおりの体制でいくということの理由づけなんですけども。

○委員

(2)の「したがって」をまず削って、平成16年度からと書いて、78.5%になっている。したがって、両校とも現行どおり2学科体制の存続が必要であるなら文章がつながりやすいんじゃないですか。

○会長

①②にの方については、体制についてはいいですか、それで。

それじゃ③の今後検討すべき事項、教育内容について、さらに意見があればお伺いしたいと思います。

○委員

この下記の教育内容というのは、下記はどこに記載してあるんですか。

○会長

下記はだからそのイからです。イからホまで。

○委員

わかりました。

○委員

ハの各種資格取得に積極的に挑戦することというふうに結んであるんですが、資格取得試験を受けるのは子供たちであって、学校側の言い方としては、その資格取得に積極的に挑戦できるような環境を整えとかいったような言い方になるのではないかなと思いますけれども、これではまるで強制して資格を取れという、取っていただきたいんだけど、そのような機運を高めるとか、できるよう支援するという言い回しの方がよいかなと思います。

○会長

これはおっしゃるとおりだと思うんです。

○委員

それと、5ページのところで一番下のところの、まず第一に「基礎学力」の充実を挙げたいというのは、一般の人はこの意味がわかりますかいね。ちょっと説明が必要ではないんですか。

○会長

ここでちょっとやっぱり書きづらい話ではありますが、かなりやっぱりギャップがある、水産高校の生徒の中に。一部ではやっぱりなかなか授業が成立しにくいような状況もあるというふうに聞いています。基本的にはやっぱりベースは、基礎学力の充実ということはどうしても触れておかないと、水産高校の現状からやっぱり逃げることになるという部分ですので、あえてこういう表現でそこらあたりを。

○委員

かぎ括弧がつくと、何かあるのかなとって、初めてこれを読んだ人はわからないだろうと。基礎的な学力とか。

○会長

特段の意味はございません。基礎的学力ということです。

順番について、ハとホを前に出せということでしたけども、これについては別に意図してこういう順番に並べられておりませんので、どうなんでしょうかこれあたり。

○委員

専攻科のところですけども、専攻科の配置についての2つ目の丸ですね、専攻科の議論は結構ここでやった記憶がありまして、その中でこの最後のまとめとして1校に集約してもというのが突然出てくるんですよね。今、世の中には1校に集約した方がいいとかいう議論があつてこれが出てるのならわかるが、そういう前提が急にここで、値段は変わらんから今までどおり。ということは、値段がもし変わるんなら1校に集約してもという議論があつたかなと思って、ちょっとこれ言わずもがなというような感じもしたもんで、意見としてちょっと申し上げてみました。

○会長

ここらあたりは高校教育課の事務局の方の意見、潜在意識が出てるんじゃないかというふうな指摘もありますけども。

○委員

いや、全体に今までどおりいこうよということをまとめられたらと思いますが。

○委員

それと、7ページの水産高校と地域との連携の中の③番目なんですけども「インターンシップの実施などで連携しているが」まではいいとして、今後JFしまね主催の事業に水産高校生が積極的に参加できるようにと書いてあるんですけども、文章自体はわかるんですけど、具体的にどのようなこと、事業にということなんですかね。例えばJFしまねが運営している市場の作業に一部加わるとか、あるいはJFしまねが何か例えば魚のイベントなんかをやるときのそのときに何か事務局側として加わるのかとか、具体的にどうということなんですかね。特にこの水産高校と地域との連携というのは、今後かなりポイントが高くならなきゃいけないとこだと思うんでかなり関心を持ってるんですけども、意味をちょっと教えてもらえますか。

○会長

これは具体的にちょっと事業名がずっと書いてあったんですね。JFしまね主催のイベント等の。ちょっとそれは書き過ぎだろうということで、それを単純に事業にと一くくりにしたと。

○委員

だからイベントなんかの分にどんどん……。

○会長

ええ、だからこういう位置づけ、表現でいいのかどうかという問題は確かにありますよ。

○委員

主催の事業という表現ですが、私が思いますにはJFしまねの事業の中で水産高校生に実際に研修をしていただくという機会をつくるとするならばいろいろな事業がありますので、競りから始まりまして、それから危険物の取り扱いから製氷、冷凍、冷蔵、いろいろございますよね。そういうところへ生徒さんの授業の一環として対応するというのであればですけど、この主催というのがちょっと私は理解しにくいんですけど。

○会長

前段のインターンシップの実施で連携はしてるんですか。一部担い手育成でやり出したという部分はありますけども、本当ごくわずかだと思います。だからこの連携しているという表現は少し書き過ぎかなと。逆に、今後連携が必要だというふうな書き方がいい

んじゃないかとは思いますが、だからそれを書いて、その後の表現はとると。J Fしまね主催の云々という。どうでしょう。

○委員

文章としては「漁業協同組合、J Fしまねの間には、現在でも」という表現になっておりますからこれはこれでいいんですが、3行目にまたJ Fしまねということで表現しなくても、これはカットしてしまえば、今後は水産高校生が積極的に参加できるようにということで、このJ Fしまね等のこの部分は一くりにした方がいいんじゃないかなと。

○事務局

今後は、何に参加すれば、やっぱり事業にですか。

○会長

いや、だからおっしゃるのはインターンシップをちょっとやってるけども、さらにそれを進めていきたい。いう表現の方がいいだろうと。「J Fしまね主催の事業」というのはとる。

○事務局

先ほど〇〇委員が言われたJ Fしまねの事業にということであれば、いろいろなものがあるというふうには言われたと思います。そういう形で、「主催」をとるという形でもよろしいですか。

○委員

J Fしまねの事業だけですか、このインターンシップ。そうじゃなくて、もっと幅広にいくと……。

○会長

インターンシップそのものはもっと幅広です、そうです。

○委員

インターンシップそのものをもう少し幅広に書いた方がいいんじゃないかなと思うんですけど。例えば地元の水産会社とかあるわけですから。

○会長

だから担い手育成を進めてることをさらに進化させていくという意味合いで、J Fしまねとか地元の水産業との連携とか、そういう書き方で書いた方がいいだろうということなんですけども、幅広に。これはおっしゃるとおりだと思うんですね。

○委員

同様に一般の事業者とのインターンシップもさらに考えていくということで、丸を1つ加えて書けばいいんじゃないですか。

○会長

じゃそういうふうに訂正させていただくということにします。

○委員

専攻科のことで1校に集約するというような文言が出ておりますが、これはコストに大きな違いがないのでその必要はないんだと。じゃコストに違いがあれば集約するのかというようなことにも発展しかねないと思うんですよね。だからコスト以外にもいろんな専攻科の存在理由はあると思うんですよ。ですからこの文言は、大きな問題のように私は思いますね。ですからここは、「2校に専攻科を設置しても1校に集約しても」というところから「コストに大きな違いがないので」というところは私はカットしてもらいたいと思いますけどね。このことから、両校の専攻科への進学希望者が毎年いる状況を踏まえると、現行どおり2校に専攻科を置きというようなことの方が。

○会長

じゃ前の15カ月乗船云々というのもし必要ないということでしょうか。これは必要ですか。

○委員

いや、それはあっていいと思います。その後の「このことから」という、何か1校に集約してもコストが大きな違いがないんだから、じゃ現行どおりでいいんじゃないかというようなことなんですよね、これは。

○会長

ただ、15カ月乗船問題はそのコスト問題の伏線なんですよ、この表現はですね。15カ月乗るから2校にしても1校体制にしても余りコスト減関係ないよということで受ける表現ですね。

○委員

ちょっと何か理解しにくいんですけどね。

○会長

ここあたりどうでしょうか。

○委員

この議論が1回ほどあったのは、私の記憶では大型船にするか中型船にするかその議論したときに、大型船の大きさを何人乗れるかといったときに、大きくなれば教員が増えてとか、そういう中で、その先にもう20名という結論づけていますから、その前にもし10名というような選択肢がないのかという議論は私は言った覚えがあります。そのときは、あの表ではことしの人数は表になくて、去年までの分で10名ない状況なんかもありましたのでね、そこのところはもう消化されたという中でここに出てるのでちょっと気になったということです。

○会長

どうでしょうか、ここらあたり。

○委員

1校に集約してもという文言がありますよね。あれを入れる必要がここはあるんでしょうかね。15カ月乗るということで大型の船が要るということは、これはわかりますよね。

○会長

どうでしょうか、そこあたり。

○委員

2校を1校に集約してもというその理由が、コストに大きな違いがないということがもう大きく出てるんですよ。2校を1校に集約しないということは、そのほかにもいろいろな理由があると思うんですよ。ここではコストの問題だけしか触れてませんよね。だからもう少し何か説明があれば、コストの問題だけじゃなくてこういった理由もあってじゃ2校要るんだなというようなことがわかるんでないかと思いますが、そんな必要はないですかね。

○会長

専攻科の意義についてはその前に書いてますので、それにつけ加えてコスト問題ということをごへ書いてるわけで、どうなんでしょうか、やっぱりひっかかりますかね、そこらあたり。

○委員

「このことから」という文言ですね、「このことから」というこの後「違いがないので」という文章は入れなきゃいけないもんですかね。その文章はカットしちゃいけないのか。

○委員

結局コスト問題にここを取れんさせているから、もしもこれが割れたときには2校体制は難しくなるよということは危惧として〇〇委員さんからやっぱり言われてる部分だと思うんですね。ですから、その前段のところで20名の定員が必要であるというふうには書いておるわけでございますから、例えば生徒及び保護者の希望にこたえるためにはコスト云々は抜きにして現行どおり20名の定員は必要であるというふうにつけ加えておけば、たまたま議論の中で2校に専攻科にしても1校にしてもコスト差で考えても違いはないということで、前段のところでコスト云々で2校を1校に将来的にするようなことになるおそれはありませんよ、というような理屈づけをしておけば、この文章は残しておいても僕はいんじゃないかなとは思いますが、どうなんでしょうか。

委員の全体の意見は、2校体制でいこうというのはもう全員の意見だったと思っています。ただ、今言われましたように大型練習船との絡みの中でどうしてもこういう文言がこの中で必要ということであれば、それは我々全員は2校体制でいこうというふうに言ってますので、前の文章のところで「コスト云々は別にして」という文章を入れておけば、表現としてはそんなに違うことにはならないし、将来の先生が危惧されている部分から少しそういう部分というのは離れていくような気がしないでもないんですが、いかがでしょうか。

○委員

1校に集約されるというのがひっかかるんですか、2校とか1校という数字が出てくるのが。そうすると、学校数にかかわらずというぐらいにぼかしたらどうですか。

○委員

この丸を2つをくっつくとくどくなるんでしょうかね。「専攻科2年のうち」というのを上とのつながりの中にするということはどうかなと思ったのと、それと私も最初読んだときに何かすごく誤解をして、単純に1校2校という選択肢のような解釈をしてしまいそうでしたので、これも言葉のあやかかもしれませんが、例えば「2校に」のところの初めに「1校に集約せず2校に専攻科を設置しても」というふうに前後を変えることでちょっと誤解が解けるような気もしながら読ませていただきました。今までの経緯を御存じない方や協議を御存じない方は誤解をされるのかなというふうに感じましたので、上段の項目と今の専攻科2年のうちとのつながりが差別化がないのがいいのかなということと「1校に集約せず2校に専攻科を設置しても」というふうな表現にした方が誤解がないのかな

というふうにとちょっと感じました。

○委員

要するにコスト論ですね、これは。コスト論だと2校と1校があるのはわかる、2校あるのはわかるみたいな話ですから、あえて異論がある中でそれを書く必要があるのかと。それは読めば、結局はコスト論だということで落ちつくんならそれでいいんじゃないかと思えますけどね。だから1とか2とかということをはひっかかるんなら、もうそんなもんとってしまった方がこれ文章として成り立つと思えますけども。要するにコストが問題だということだけきちっと趣旨としてはっきりとわかるようにしておけばいいんじゃないですか。確かにコスト論というのは議論の中で出たわけですからね。

○会長

わかりました。ここでは成案を出すのはなかなか難しいと思えますので、ちょっとそういう趣旨踏まえて少し文章には工夫させていただくということで、ちょっと預かりしていいですか。

○委員

はい。

○会長

じゃちょっとそういう趣旨を踏まえて、なおかつ当初の意図がちゃんと残るように少し表現を変えたいというふうにしたいと思えます。

○委員

済みません、6ページのところ、表現が「検討願いたい」という表現と「検討されたい」という表現が混在をしております、ここは検討願いたいと書かれたところと検討されたいと言っているとこの違いがあるのかなのか。ないとすれば、文言は統一しといた方がいいかなという。

○会長

ありません、違いは。「されたい」という表現に統一するというところでよろしいですかね。

○委員

専攻科の今後検討すべき事項の教育内容についてなんですけれども、専攻科はこれだけ必要性を生徒も保護者も感じているとうたいつつ、「教育内容について」が非常にあっさり終わっておりまして、本科の方はこんなに、イロハニホヘトみたいな言ってるんで

すが、ちょっとあっさり過ぎるのではないかなという印象を受けております。ここもより高度な教育内容が習得できるようなというように、いわゆる本科よりもさらに上の専攻科の存在が必要でありというように示すべきであると思いますし、その具体的な例として水産経営学などというので一本で終わってるんですが、やはり例示として挙げるのであれば何とかや何とかという2つぐらい、ちょっと私は専門ではないのでわからないんですけども、やはり本科よりもさらにより高度な教育内容が習得できるような科なんだというところはぜひやはり示していただくべきかなと思います。いかがでしょうか。

○会長

最初は何もなかったんですけども、辛うじてこれを加えたという。一つ、漁具・漁法というそういう学問があるかどうか知らんけど、漁具・漁法学というような話もありましたけども載ってません。これはちょっと消したんですけども。

○委員

議論の中で専攻科に対しては余りなかったですよ。もうほんにこれはすごい意識も高いし、いいじゃないかということですから、今までの議事録を見て書こうと思っても書くものがないということで私は書かなかったんですよ。そしたら会長が僕がつくった議題を見て、これは何か入れないとあまりにあっさりしてるということでこの水産経営学というのが出てきたという経緯もありまして。

いや、書こうというと、皆さん方の御意見でそこが教育内容についての話はたしか出てなかったような気がしまして、つけ加えるのは失礼だということで私は書かなかったんです。けどやはりそうはいつでも専攻科の中でどこか高度的な教育内容があるんであれば、きょう皆さん方の御意思の中で2つぐらい何か探して書いてよということであれば、やっぱり幾らでもそれは書くことはできるのかなというような気はしてますけど。

だから水産経営学というのも、先ほど〇〇委員が言われたように会合の中では一切出てきてなかったんで、どうしたのという質問があったと一緒にして、だからここはもしあれなら何か少し、会長預かりで……。もしあれなら2つぐらいちょっと書かせてもらうよということで承認を皆さんがさえよければ。

○会長

基本的にはやっぱり資格取得ですね。

○委員

それしかないですね。

○会長

どっちかいたらもう予備校ですから、専攻科は資格取得の。

○委員

船に乗るためにはやっぱり資格が必要だから、それだけですけえね。

○会長

そういうことですよ。それに水産経営学入れるということで、そういう表現が必要であればやっぱりさらに資格取得というような表現ですね。ここに入れるという。

○事務局

カリキュラムというか、授業時数の関係からいいますと、余りもうそのキャパがありません。

○会長

じゃちよっそこらあたりを預からせていただきたいと思います。全体で資格取得と、本科のところで導入すべき科目を前に出すということがありましたけども、確かにやっぱりそれとほかの記述とはちよっと違うんです。これは具体的に書いてあるけども、ほかのイはかなり抽象的表現だというちよっと表現の違いもありまして、少し前にやっぱり出した方がいいかなというふうな思いはありますけど。

○委員

並べ方からいくと、この本科の場合、イとニは大体並んでますよね。ロとハとホがいわゆる専門的教育の充実ということで教育内容はこういうことこういうこととなります。その辺は連動させていた方が、この書き順としましてはそれは素直なことにならせんかなというのは見てて私も思いましたけど、強調というかどうかというふうに強調すればいいのかなと思って今考えてましたが、なかなか表現上は難しいかななんて思っていましたけど。どっちを先に書くのか。でも、基礎的ということから早くとなれば、それを先にやっぱり書かないといけないのかなという気はしなくもないですけど、せめてそこの入れかえはできるんじゃないかなと。

2段にして、基礎的というところで2つつけて、それから専門的教育の充実という欄を設けてその下にこのハとホをまた別段にして書くとか、2つを併記して基礎的なものは一つはこう、それから専門的なものはこうだよって段落を少し分けて、いわゆる2つのさらに細分化したものの中にその提案を入れていくということなら、より見て専門性のあるものと基礎的なものとはこういうふうに皆さんが提案したんだな、というのはわかりやすく

はなるような気はしないでもないですけど、そういうやり方に変えるということはいかがなんでしょうか。

○会長

なるべく並べ方の問題を含めて、ちょっとそこらあたりを検討させていただきます。

○事務局

「基礎的、専門的教育内容」という例示をそこへ入れて、「次に述べるような基礎的、専門的教育内容についてより効率的、効果的に進めてもらいたい」としてはいかがでしょう。

○会長

そういう表現にして分けるということですね。じゃそういう表現にして、それをわかるように順位を入れかえてやらさせていただきます。

ほかになければ一たんここで少し休憩をとって、最後の練習船の記述に入りたいと思います。

〔休 憩〕

○会長

それでは再開いたします。

(資料3の「水産練習船のあり方」について事務局より説明)

○会長

今まで議論した内容はそのまま書いてあると思いますけども、〇〇委員さん、いいですか。

○委員

いいんじゃないですか。

○会長

どうぞ。

○委員

大変うまくまとめられておると思いますが、3番目の新大型練習船1隻にするに当たっての配慮事項というところで1つつけ加えてもらいたいと思うんですけどね。というのは、練習船を建造するに当たってどういう船にするかということは触れられてないんですよ。このことにつきましては、浜水での専攻科生徒の懇談のときもそういった話が出ましたけども、学習環境あるいは居住環境というものに相当配慮してもらいたいなど。そういった

配慮をして建造するというような文言が入ればなというように思うんですよ。

○会長

そこらあたりは②の一番最初の3行目のところですね、「適切な教育環境を確保し」というところで書いたというふうな気持ちはあるんですけども、これでは不足ですか。

○委員

そうですね、もう少し具体的に、例えば生徒一人頭の広さといいたいまいしょうか、ベッドの長さにしろ今の子供に合ったようなベッドの大きさにするとか、あるいは学習する上でのそういったスペースを設けるとか、そういったことはいろんな今言いました学習環境、居住環境に相当配慮した設計といいたいまいしょうか、建造をするという。

○会長

余り細かくやり過ぎると、かえってやる方がやりづらくなるなというふうな部分もありまして、意図さえ御理解いただければというふうに思ってそこらあたりを書いておるんですけども、そういう意味合いでですね。

○委員

650トン級というように書いてありますが、650トンを場合によっては過ぎるかも、しれませんよね。そういった場合に、そこまではいいですか。

○委員

いいでしょう。

○会長

級と書いてありますから、650トンというふうに言い切ってませんので、御理解いただけるかと思います。

○委員

ここで議論したことはきちっと盛り込まれておりますのでよろしいと思いますが、ちょっと表現のところで10ページの上から2行目のところですが、これ例えば「わかしまね」級の船舶建造と近い将来「生ずる」をとるか、「生ずる」を入れるならば「神海丸」の更新による新たな建造費負担により、「生じる」「生じる」がこれ重なってると思うんで、どっちかにする方が文章としては麗しいんじゃないかという感じはします。

○会長

後は「が生じるため」は必要ないじゃないですか。建造費負担を中長期的に比較するというふうにつなげればいいじゃないですかね。

○委員

運行計画の中で、今の神海丸につきましては、利用目的の中で県民の船ということがうたってあったかなと思っております。ということで、いろんな県民の方ですね、中学生も含めたいろんな方に乗ってもらって、水産練習船というものを体験してもらっていました。今度は県民の船というような意味合いはなくなりますね。生徒の乗船実習の関係でそういったことが不可能になるということだろうと思いますが、どうでしょうか。

○会長

全くなくなりますかね、そこあたりは。

○事務局

今の段階では、1学期においては専攻科生が乗船実習等しますので、現段階においては県民の船ということは考えていません。ただ、小型練習船等がありますから、そういったものの活用等々で対応できないかなとは今の時点では考えています。以上です。

○委員

中学生の体験航海が前ありましたね。2泊3日だったかやって、そして実際に神海丸そのものを体験してもらった。これ職業選択、学校、進路選択といいましょうか、中学生の進路選択に役立てるといような目的もあったんですが、次からはこれが恐らくできなくなるというようなことで、大変残念だという感想です。

○事務局

先ほども申しましたけども、専攻科という資格取得及びスペシャリストの育成ということで現時点では乗船実習を第一にと考えていますので、今の時点で県民の船的なものはちょっとできませんけども、将来的なものにつきましては今後検討していくとしか今の段階では言えないと思います。

○会長

それでもう一回少しもとに戻りまして、〇〇委員の御心配のところですけども、ちょっとこれは事務局としても表現をもう決めて欲しいという注文がありましたので、8ページですね、専攻科の問題ですね。細かい表現は別として、一応おおむねどういう表現がいいのかということでここでちょっと決めたいと思いますけども、事務局から何か提案がありますか。

○事務局

2つ目のところの段落というかセンテンスが2つありますが、「両校の専攻科への進学

希望者が毎年いる状況を踏まえると、現行どおり2校に専攻科を置き、生徒や保護者の希望にこたえる必要がある」というのを前に持ってきて上の「20名の定員が必要である」とつなげて、次に「なお専攻科の2年のうち15カ月は乗船することになる」を持ってきて、このことから云々で、「コストに大きな違いがない」とするのはいかがでしょうか。

○会長

前提で2校体制だよと、あらゆる点から考えてですね。コスト問題ももちろん含めて考えて、総合的に2校体制でいくと。〇〇委員どうでしょうか。どうしても表現で1校に集約してもという表現がひっかかりますか。

○委員 委員総意でコスト問題抜きにしても2校体制でいこうという話でずっと来てますので、今事務局が言われましたように、なお書きでコストも考えたよということであれば、〇〇委員が、それを将来の危機感として何かあったときにこうなった、コストだけで考えたら1校になるよというようなおそれは、なお書きでやられれば薄まるというか、なくなるんじゃないかって私ども思いますし、委員全員もコストだけで考えて結論を出したというつもりはございません。〇〇委員と全く同じ流れの中で、これはもう教育観点上コスト云々じゃなくて、浜田と隠岐に置くことによって生徒のニーズにもこたえられるし、それから新しい大型船はそれが60名で全員が学習ができるという流れになっていくので、そういうような編成のところで落とし込めば〇〇委員のお気持ちも私たちの気持ちも変わらないと思いますが、いかがでございましょうかね。

○委員

わかりました。

○会長

一応そういうことですので、これが大前提でないと、コスト問題がですね。ただ、このことは触れざるを得ない。あと練習船の問題についても。県財政にかかわる問題ですので、これはやっぱり触れざるを得ない。明確に書いておくべきだということがありますので、じゃそういう表現に変えさせていただくということで御了解いただければと思います。よろしくお願いします。ほかに何か全体を通してございますか。

○会長

それでは、なければ本日いただいた御意見を参考にしまして、直しをして最終提言案を確定するというところで、後でスケジュールを説明いたしますけども、パブリックコメントにかけるということでありまして、それにかける最終提言案については今の御意見いただ

いて、会長一任で訂正させていただくということによろしいでしょうか。

ではそうさせていただきます。

○事務局

会長、資料の説明をさせてください。

○会長

資料の説明をしたいと思います。

(資料について事務局より説明)

○会長

この資料について、何かありますか。

じゃこれも含めて、パブリックコメントに出すということになると思います。

ただ、資料1の最後の日本商船隊における外国人船員というのはちょっと違和感がある資料だなということはあるんですけどね。これが必要なのかどうかですね。ちょっとこれは船員数と母数が違うんですよ、これはね。外国の船員数の母数とは。船主が日本国籍なのか外国籍なのかということで、日本商船隊は両方含めてありますので、そうすると母体が違ってくるという話があります。

○事務局

じゃこの資料1の4の資料はとるということで。

○会長

よろしいですか。

じゃ今後のスケジュールをちょっと説明してください。

[事務局よりスケジュール説明]

○会長

今ありましたけども、検討委員会の第7回が7月22日というふうに予定はされてますけども、ただ、パブリックコメントで県民の皆さんからの意見を伺うということで、大きな変更点なければあえて第7回を開催する必要はないんじゃないか思っています。若干の字句の修正等々であれば、あえてそのために委員会で御足労願うということはちょっと大変かなと思ってまして、その場合は一応パブリックコメントを受けた修正案の修正を会長一任ということで任せていただいて、その修正案とパブリックコメントのまとめを各委員にお送りして、文書で一応御理解いただく。何か意見があればお伺いするというで。

ただし大きな変更点、根幹にかかわるような変更点がある場合には22日にもう一回開

催させていただくということで、そこらあたりの判断は任せていただければというように思います。それでよろしいでしょうか。

その上で7月31日までに教育長に、どういう形かわかりませんが、最終提言ということで答申するというふうにしたいと思います。

では、そういうことで進めさせていただきますので、ひとつよろしくお願いします。

教育長挨拶

きょうも活発な御議論をいただきましてありがとうございます。

ほぼきょうのところで案文までまとめていただきまして、この間について改めてお礼を申し上げますとともに、引き続きまして島根県の水産教育について御理解と御支援をいただきますようお願いいたします。あいさついたします。きょうはどうもありがとうございました。